

令和7年 7月 25日

（宛先）新潟市長

所在地 新潟市北区葛塚 3197 番地

団体名 葛塚東コミュニティ協議会

代表者名 会長 五十嵐隆吉

事業変更承認申請書

令和7年5月12日付け新北地総第184号の2で交付決定のあった下記提案事業について、事業内容を変更したいので、新潟市まちづくりパートナーシップ事業補助金交付要綱第18条の規定により、関係書類を添えて次のとおり申請します。

記

市の課題 (テーマ)	提出した部署名	北区役所地域総務課
	課題・テーマ名	自然の魅力や特徴を活かした観光振興
提案事業の名称		子ども達と創り出す「地域の宝箱」
交付決定額		241,000 円
変更承認申請額		241,000 円
変更予定年月日		令和7年 8月
変更の理由		当初計画では多言語案内表示や中学生との連携による福島 潟のインバウンド向けPR手法の企画を予定していましたが、 学校側の年間カリキュラムとの調整が困難で実施を断念し ました。現在、主事業の雁迎灯で使用している基準杭は10年 以上前のもので、規模縮小により完成図との乖離が生じてい ます。今後の精度向上のため新たな基準杭設置を行い、残余 補助金を充当したく申請します。なお、本事業は2年間で約 40万円の協力金収入があり、利回り約6.7%と費用対効果も 高く、有効な資源活用と考えます。

次ページ（裏面）に変更の内容を記入してください。

変更の内容	変更前	雁迎灯の持続可能化及び、 交流人口拡 <事業内容> 1 太陽光蓄電 LED ライト約 2,600 本 2 福島潟の魅力を広め、観光客や交流人口を増やすため、テスト訪問されている外国ツアー業者に「雁迎灯」の PR <下記は 2023 年提出資料の手法の予定> ・案内板に外国を併記するか、スペースの関係で無理ならば URL 付案内板の設置（二次元コードの読み取りにより英訳、中国語訳 韓国語訳）可能ならばモバイル汎用アプリで音声案内。 ・小中高生による雁迎灯のデザインや広告、宣伝、企画をしてもらう。旅行社からツアープランのたたき台を作ってもらい、小中学生に肉付けしてもらう。 ・その他各団体による福島潟の魅力創出に向けての取組み。
	変更後	雁迎灯の持続可能化及び、 交流人口拡 <事業内容> 1 太陽光蓄電 LED ライト約 2,600 本 2 福島潟の魅力を広める事業の一環として、雁迎灯の完成度を高めるため、完成図と作業指示書の整合を図るべく新たな基準杭を設置します。また、雁迎灯のデザインや制作に中学生が主体的に関わることで、地域との連携を深め、本事業のストーリー性と内外への発信力強化を目指します。 また、可能な範囲で、「お福伝説」などの PR パネルなど、福島潟の魅力増進の策を練り直す。
添付書類		変更の前後がわかる次の資料 1 事業計画書（※1） 2 収支予算書（※2） 3 その他必要な書類

※1：課題解決に向け、提案事業が補助金申請の最終年度以降も引き続き自主運営・自主財源で継続実施する必要がある場合、引き続き自主運営等で実施する最低2年度分の事業計画書を提出してください。

5年以内に課題解決する見込みの事業の場合は、解決する見込みの年度までの全ての事業計画書を提出してください。

※2：上記事業計画書と同年度分を提出してください。

1.事業概要

事業名	NEW雁迎灯	年度	2025年度
事業主体	葛塚東コミュニティ協議会		
事業の目的	雁迎灯のデザイン性のレベルアップを目指す。LED化した3年目を広く周知して、更なる交流人口拡大を図ること。		
事業スケジュール	年月	内容	
	5月	葛塚中学校にデザインの依頼	
	6月	過去2年の経験を反映させる会議	
	8月	東コミ協内でインバウンド向け福島潟PRとなる案内企画の検討のし直し	
	9月	雁迎灯の完成予定図を忠実に再現できるように基準ポイントの打ち直し	
	9月	測量会社に照明設置ポイントの設計図依頼	
	9月	設置作業の基準ポイントの設置	
	9月23日	雁迎灯作成展示（1週間）	
	9月28日	撤去作業	

2.実施内容

実施の内容	最終事業年度となる2025年度は、葛塚中学校からの申し出により、雁迎灯のデザインから中学生が関わることにする。また、1年目と2年目で成功した部分のブラッシュアップと反省点の改善を積極的に行う。 過去2年間、完成予定図と実際に出来上がった雁迎灯の配置にズレが生じ、遊歩道にLED照明を立てるために園芸用ポットの購入が相次いだ。それらは東コミ協の独自予算で賄ってきたが、完成予定図どおりの設計となるように努める。
訴求ポイント	遊歩道を含み予定外の箇所に照明が設置されることにより、雁迎灯の完成図が縦につぶれてしまいます。これを防ぐことにより、きれいな光の絵が出来上がります。近年、観覧協力金を募金頂いていることから、ハイクオリティな出来栄えになり観覧者の満足度を向上させられます。 福島潟の魅力を送信する読み物や看板類を設置することで課題である「福島潟での滞在時間延長」を図れると考える。